

- 1 日時：6月3日(金) 5限
- 2 クラス：1年5組
- 3 場所：コンピュータ室
- 4 単元：『最新情報Ⅰ(実教出版)』 第1章2節 情報社会の法規と権利 1 知的財産 (p10)
『基礎から始める情報リテラシー(実教出版)』 第2章④ 例題10 ビジュアルな文書を作成する。(p36-39)

5 単元目標：

- ・情報社会で生活していくために、知的財産に関する法律を理解するとともに、とるべき行動を理解する。その際、法を遵守する理由とその重要性を理解する。
- ・Wordの機能を活用して、ビジュアルな文書を作成することができる。

6 単元の評価規準：

	[A] 知識・技能	[B] 思考・判断・表現	[C] 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	知的財産に関する法律の種類を理解する。	知的財産権はなぜ遵守する必要があるのかについて、自分の言葉で表現でき、法令遵守の重要性を理解している。	知的財産権はなぜ遵守する必要があるのかについて考え、出された問いに関して、自分の意見を発信することができる。
	知的財産に関する法律の期間や権利が発生する条件、例外規定を理解する。	どのような行為が、どの知的財産に関する法律に値するのかを判断することができる。	
	Wordを使って、ビジュアルな文書を作成する方法を理解する。	Wordの機能を用いて、ビジュアルな文書を作成することができる。	与えられた課題を時間内に終わらすことができる。
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末に観点別学習状況の評価(A,B,Cの3段階)にまとめます。			

7 本時の展開：

(1) 本時の目標

- ・知的財産権はなぜ必要であるのかを理解するとともに、自分の言葉で表現する。
- ・著作権のない世界を想像でき、メリットとデメリットを理解するとともに、自分の言葉で表現する。
- ・Wordを用いて、ビジュアルな文書を作成する方法を理解するとともに、活用する。

(2) 本時の評価規準

- ・知的財産権はなぜ遵守する必要があるのかについて、メリットとデメリットを考えた上で自分の言葉で表現する。【B】
- ・発問に対して、自分の意見を考え、発信できる。【C】
- ・Wordを用いて、ビジュアルな文書を作成することができる。【B】
- ・時間内に、ビジュアルな文書を作成することができる。【C】

(3) 学習過程

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
授業前	・パソコンへのログイン		
導入 3分	・前回の復習		
展開 16分	・「知的財産権があるからできないことは？」 (3分30秒) ◎個人で考える(30秒) ◎ペアで話し合う(1分) ◎発表(2名程度・1分) ◎説明(1分) ・著作権がない世界のメリットは? 「あなたが住む世界に著作権がなくなりました」(3分30秒) ◎個人で考える(30秒) ◎ペアで話し合う(1分) ◎発表(2名程度・1分) ◎説明(1分) ・発問：知的財産権はなぜ必要か 「あなたが漫画家で著作権がないとどうなる?」(8分) ◎個人で考える(1分) ◎ペアで話し合う(1分) ◎発表(2名程度・1分) ◎説明(5分)	プリントを出すように指示する。 ※意見交換の際に、配線に気をつけるように指示する。 ※発表の手が上がらない時は、こちらか当てる。 語句説明の際に、生徒と対話しながら、語句を説明していく。	・知的財産権はなぜ遵守する必要があるのかについて、メリットとデメリットを考え自分の言葉で表現する。【B】 ・発問に対して、自分の意見を考え、発信できる。【C】
実習 30分	・例題10：ビジュアルな文書作成 注意点の説明を行う(2分) ◎A4とA5の違い ◎完成を見せる ・例題10：ビジュアルな文書作成(情報リテラシー教科書p36)を進める(28分)	8割～9割ができていれば、次に進む。未完成者は、休み時間で完成させるように指示する。 説明の際は、中央の画面を見るように指示する。	・Wordを用いて、ビジュアルな文書を作成することができる。【B】 ・時間内に、ビジュアルな文書を作成することができる。【C】
まとめ 1分	・上書き保存の指示 ・印刷の指示	完成ができれば、印刷をする。	